

# 勝林寺寺報

## 三種の智恵

人間は毎日いろいろと智恵をはたらかせて生きておりますが、その智恵については、よくよくかんがえると、三種の智恵があるようになります。

第一の智恵とは、学習の智恵を言います。学校で教えられ、勉強して身についた智恵です。人間の社会を生きるためには、この智恵はしっかりと持つていなければなりません。しかしながら、人間がこの世を生きていくためには、もう一つの智恵が必要になります。

第二の智恵がそれです。これは社会の智恵とも言えましょう。世渡りの智恵です。家庭の中で、また隣近所の付き合いの中でも、人間と人間とが『仲良く日暮するための智恵です。世の中の理屈は学校の智恵では通らぬことがあります。』

こういう社会の智恵も充分に身につけることが大切です。しかしながら、幸せな人生を築くためには、もう一つの智恵が必要だと思います。

第三の智恵です。それは人生の智恵とも名づけられるべきものです。私たちの人生は、いつも平坦な道ばかりではありません。悲しい時も、苦しい時もあります。そんなときにはどう生きるか。その時には、学校の智恵や世渡りの智恵は、まったく役に立ちません。そういう人生のまがりかどでは、今まで自分の心をどれほど磨き、育ってきたかが問われます。そういう心から生まれてくるものが第三の智恵です。私たちの人生にとっては、この智恵こそが一番大切だと思います。

## 原理の崩壊

この「ころ世界のできご」とが瞬時にテレビで報道されます。まさに情報化、国際化の時代です。そしてそういう時代状況の中で、私たちのもの考え方も、さまざまに多様化してまいります。た。価値観の分裂、相対化です。すでに今日では、まちがいのない絶対的な何かがあると認識し、それに向かって、みんなが集まっていくというような、そういうことはなくなつてきました。』今若い人の間でいわれている「面白主義」というものがあります。おもしろければ、なんでもいいというのです。為になるとか、ならぬとか、そんな固いこというなというわけです。そのことはテレビの番組をご覧になればわかります。どのれびにも出ているタレントさんが、朝から夜遅くまで、そのときの話題をネタにして笑わしている。それを若者たちがよろこんで、また隣近所の付き合いの中でも、人間と人間とが『仲良く日暮するための智恵です。世の中の理屈は学校の智恵では通らぬことがあります。』

こういう社会の智恵も充分に身につけることが大切です。しかしながら、幸せな人生を築くためには、もう一つの智恵が必要だと思います。

第三の智恵です。それは人生の智恵とも名づけられるべきものです。私たちの人生は、いつも平坦な道ばかりではありません。悲しい時も、苦しい時もあります。そんなときにはどう生きるか。その時には、学校の智恵や世渡りの智恵は、まったく役に立ちません。そういう人生のまがりかどでは、今まで自分の心をどれほど磨き、育ってきたかが問われます。そういう心から生まれてくるものが第三の智恵です。私たちの人生にとっては、この智恵こそが一番大切だと思います。

(信楽峻磨遺稿法語集より引用)

## 永代経法要のご案内

仏法が多くの先人によって今日まで受け継がれてきたことを皆で喜び感謝し、これから先も変わることなく伝わることを願つて、今年も永代経法要をお勤めします。誘い合わせて、お参りください。

日時 七月八日（水）午後七時三〇分より

午前一〇時より 七月九日（木）

午後七時三〇分より 九日（木）

午前一〇時より 九日（木）

午後七時三〇分より 九日（木）

午前一〇時より 九日（木）

午後七時三〇分より 九日（木）

午前一〇時より 九日（木）

七月 勝林寺 予定

二日（木） 出石組 三役会

四日（土） 正福寺 永代経

五日（日） 出石組 仏壯報告総会（西宗寺）

八日（水） 勝林寺 永代経

九日（木） 勝林寺 永代経

十一日（土） 永井あさ江宅 三回忌

一二日（日） 連研（西宗寺）

一八日（土） 寺族・総代 同朋講座

一九日（日） 横山伸三宅 一周忌

二十日（月） 仏社但馬プロソク研修会

二五日（土） 前坊守 二五回忌法要

二六日（日） 福富 剛宅 二五回忌

三一日（金） 出石組 実践運動委員会

\*尚、役員の皆さまには、法要後、昼食を用意しております。心づもりをお願いいたします。

（敬称略）

葬儀

六月十一日

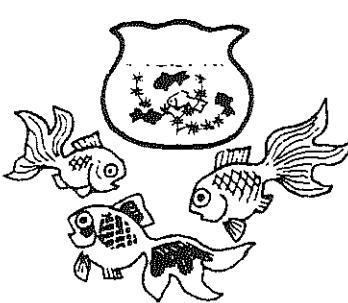
福知山 森戸 通夫様 七十歳

六月

唐川 仲田 一枝様 九十一歳

六月

小谷 山田 君江様 八十四歳



# 私の生きてきた昭和8

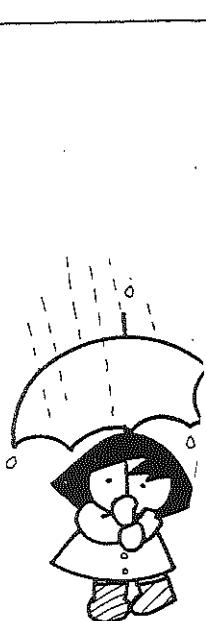
実父「哲雄」が亡くなつたのは、私が弘道小学校に入学したその年であつた。入学祝いに買った赤い自転車に、わが子が乗り始めたのを喜んだその年の夏であつた。京都大学病院の一階病棟隔離室。ちょうど、熊野神社と背中合わせの特別室であった。総代さんに手を引かれて面会に行つた私に、「大きくなつて勝林寺の住職になつても、決して説教坊主になつてはだめ。ご門徒の皆さんと一緒におみのりを聞いていかねばだめだ。」と言つた。これがわたしへの、遺言であったと思う。父自身、全国方々へ出かけて、ほとんど勝林寺を留守にして、「お説教使」として過ごしていた。今にして考へると、自分自身の反省、ご門徒への懺悔の気持ちから出た言葉であつたように思う。それはともかく、この言葉一点だけに、いまも「わが父」をしのぶのである。

父の死後は、母「八重野」の死に物狂いの戦いがはじまる。私と生まれたばかりの弟「哲心」、それに、私の三つ違ひの姉と妹。四人の子育てだけでも大変だつたろう。それに、まだ、何でも再配したがる姑がいた。母は、父が亡くなつたその年の冬に、ご本山に上り、「得度」(僧侶の資格)を受け、帰るなり、早速、小学校の校庭で毎夜自転車の猛練習を始めた。無事に、自転車に乗れるようになると、ジョンという大型犬をお供に連れて、ご門徒宅の報恩講参りを始めた。また、小学校一年生の私を連れて、毎朝本堂に行く。他の兄弟はまだ寝ているのに、私だけを起こして連れて行つた。まず、お勤めの稽古、ちょうどこのころお勤めの改定があつて、同じ親鸞聖人が歌われた「正信偈」ではあるが、

古い「旧節」(草譜)から「新節」(行譜)への改定が行われる最中であつた。眠くてつい声が出ないと叱られた。これが終わると、「高座」と

いう高い台の上に座らされ、母の教えた「こ」と「を大声で称えるのであつた。「人が悪い」「聞いても聞いても、何ともない。何ともないのがおわが身が悪い。破れ車の輪(我)が悪い」「聞いと」しげんぞ」この類の句をいくつか教え込み、大声で唱えさす。高座の下で母は、平伏して、自分が教えたものなのに、涙を流さんばかりに念佛唱えながら聞き入るのであつた。さて、この稽古が終わると、今度は内陣という仏さまの周りの板を「ぬか袋」で磨ぐのである。これを1年中毎日続ける。

それから、ついでにもう一つ思い出したことがある。母は、容姿も悪かつたが、歌も変調だつた。だから、いざこの母も歌う子守唄は聞いたことがない。代わりに、母独特の歌を聞かせてくれた。思うにそれは、日本の古典物語の冒頭部分の暗唱であつた。母が亡くなつた後、古いものを整理していくと見つかった。母が嫁に来た時に、持つてきたごおりの中に、大事に整理してしまつてあった物語、隨筆、戯記物など古典の数々。母は「私には、これしか能がない」といつているようだつた。ずっとあとになつて、中学校で古典を習つたとき、私ひとりすらすらと朗読でき、自分も驚いたが、先生も怪訝な顔をしておられた。国語・漢文は、それで私の一番得意な科目となつた。九十を迎えた今でも、古典を読むのは私の趣味である。(文責 前住職)



法語カレンダー七月 (HPより抜粋)  
私が 私であつてよかつた  
といえるあなたにがれ

ですん

納骨研修旅行に行つてきました。  
今回は、旅の楽しさおすそ分け号をお届けします。まず、西本願寺にお参り。さすが国宝、何度訪れてもほれぼれします。ちょうどだけ、勝林寺もかないません(笑) 次は、大谷本廟納骨。

今年は、十三名のお骨をお納めしました。別離の悲しみが蘇り、涙される姿にこちらも胸が熱くなります。しかし、「みんな一緒」の安心感にう方が多いのではないかでしょうか。(中略) そんなときいつも思います。草木をはじめ、他の生き物を見ていると、すべての草木、生物が「これでいい」「それでいい」と、それぞれの存在の肯定を行つて納得して生きているようです。その起因するものは、にもかかわらず、人間だけが、あえて存在の否定を行つてはいるようです。その起因するものは、私たちがかかえている煩惱ではないでしょうか。三毒の煩惱といわれる貪欲(むさぼり)、瞋恚(いかり)、愚痴(おろかさ)が私たちを左右している。だから、いざこの母も歌う子守唄は聞いたことがない。代わりに、母独特の歌を聞かせてくれた。思うにそれは、日本の古典物語の冒頭部分の暗唱であつた。母が亡くなつた後、古いものを整理していくと見つかった。母が嫁に来た時に、持つてきたごおりの中に、大事に整理してしまつてあった物語、隨筆、戯記物など古典の数々。母は「私には、これしか能がない」といつているようだつた。ずっとあとになつて、中学校で古典を習つたとき、私ひとりすらすらと朗読でき、自分も驚いたが、先生も怪訝な顔をしておられた。国語・漢文は、それで私の一番得意な科目となつた。九十を迎えた今でも、古典を読むのは私の趣味である。(文責 前住職)

私が、私でよかつたといえる世界は、存在の肯定をあらわしています。しかし人は、どちらかといえば、こんな私ではだめだ、と思つてしまつた赤い自転車に、わが子が乗り始めたのを喜んだその年の夏であつた。京都大学病院の一階病棟隔離室。ちょうど、熊野神社と背中合わせの特別室であった。総代さんに手を引かれて面会に行つた私に、「大きくなつて勝林寺の住職になつても、決して説教坊主になつてはだめ。ご門徒の皆さんと一緒におみのりを聞いていかねばだめだ。」と言つた。これがわたしへの、遺言であつたと思う。父自身、全国方々へ出かけて、ほとんど勝林寺を留守にして、「お説教使」として過ごしていた。今にして考へると、自分自身の反省、ご門徒への懺悔の気持ちから出た言葉であつたように思う。それはともかく、この言葉一点だけに、いまも「わが父」をしのぶのである。

父の死後は、母「八重野」の死に物狂いの戦いがはじまる。私と生まれたばかりの弟「哲心」、それに、私の三つ違ひの姉と妹。四人の子育てだけでも大変だつたろう。それに、まだ、何でも再配したがる姑がいた。母は、父が亡くなつたその年の冬に、ご本山に上り、「得度」(僧侶の資格)を受け、帰るなり、早速、小学校の校庭で毎夜自転車の猛練習を始めた。無事に、自転車に乗れるようになると、ジョンという大型犬をお供に連れて、ご門徒宅の報恩講参りを始めた。また、小学校一年生の私を連れて、毎朝本堂に行く。他の兄弟はまだ寝ているのに、私だけを起こして連れて行つた。まず、お勤めの稽古、ちょうどこのころお勤めの改定があつて、同じ親鸞聖人が歌われた「正信偈」ではあるが、

改定が行われる最中であつた。眠くてつい声が出ないと叱られた。これが終わると、「高座」という高い台の上に座らされ、母の教えた「こ」と「を大声で称えるのであつた。「人が悪い」「聞いても聞いても、何ともない。何ともないのがおわが身が悪い。破れ車の輪(我)が悪い」「聞いと」しげんぞ」この類の句をいくつか教え込み、大声で唱えさす。高座の下で母は、平伏して、自分が教えたものなのに、涙を流さんばかりに念佛唱えながら聞き入るのであつた。さて、この稽古が終わると、今度は内陣という仏さまの周りの板を「ぬか袋」で磨ぐのである。これを1年中毎日続ける。

それから、ついでにもう一つ思い出したことがある。母は、容姿も悪かつたが、歌も変調だつた。だから、いざこの母も歌う子守唄は聞いたことがない。代わりに、母独特の歌を聞かせてくれた。思うにそれは、日本の古典物語の冒頭部分の暗唱であつた。母が亡くなつた後、古いものを整理していくと見つかった。母が嫁に来た時に、持つてきたごおりの中に、大事に整理してしまつてあった物語、隨筆、戯記物など古典の数々。母は「私には、これしか能がない」といつているようだつた。ずっとあとになつて、中学校で古典を習つたとき、私ひとりすらすらと朗読でき、自分も驚いたが、先生も怪訝な顔をしておられた。国語・漢文は、それで私の一番得意な科目となつた。九十を迎えた今でも、古典を読むのは私の趣味である。(文責 前住職)

(藤実無極)

「それでいい」と、やさしく包み込み、支えてください。いつでも、どこでも仏さまと一緒にいただけならば、こんなに心強いことはありません。

寺もかないません(笑) 次は、大谷本廟納骨。今年は、十三名のお骨をお納めしました。別離の悲しみが蘇り、涙される姿にこちらも胸が熱くなります。しかし、「みんな一緒」の安心感にう方が多いのではないかでしょうか。(中略) そんなときいつも思います。草木をはじめ、他の生き物を見ていると、すべての草木、生物が「これでいい」「それでいい」と、それぞれの存在の肯定を行つて納得して生きているようです。その起因するものは、にもかかわらず、人間だけが、あえて存在の否定を行つてはいるようです。その起因するものは、私たちがかかえている煩惱ではないでしょうか。三毒の煩惱といわれる貪欲(むさぼり)、瞋恚(いかり)、愚痴(おろかさ)が私たちを左右している。だから、いざこの母も歌う子守唄は聞いたことがない。代わりに、母独特の歌を聞かせてくれた。思うにそれは、日本の古典物語の冒頭部分の暗唱であつた。母が亡くなつた後、古いものを整理していくと見つかった。母が嫁に来た時に、持つてきたごおりの中に、大事に整理してしまつてあった物語、隨筆、戯記物など古典の数々。母は「私には、これしか能がない」といつているようだつた。ずっとあとになつて、中学校で古典を習つたとき、私ひとりすらすらと朗読でき、自分も驚いたが、先生も怪訝な顔をしておられた。国語・漢文は、それで私の一番得意な科目となつた。九十を迎えた今でも、古典を読むのは私の趣味である。(文責 前住職)